

コロナ禍を乗り越えた新生ホーチミンの風景

ホーチミンデスク 浅井 崇氏

コロナ後の状況、経済情勢

ベトナムのコロナ対策は、ニュージーランドや台湾に次ぐ優等生として世界的な評価を得ていましたが、2021年4月からの第4波では世界でも最も厳しいロックダウンを実施しました。

ロックダウン解除後の10月からは政策をウィズコロナに180度転換し「感染者数を数えない」など、どんどん規制を解除していきましたが、もちろん、子供向けのワクチン接種や検査の徹底なども忘れずに、これまた非常に高い対応力を評価されています。この共産党一党独裁の強みを活かしたスピード感のある対応に、多少の賛否はあるものの、多くの国民や在住者からは「曖昧さがなくていい」という言葉が聞かれます。そのおかげで国内経済は企業間の往来も増えて目に見えて回復してきていますが、長年、外国からの投資に頼ってきた側面もあり、外資の新規進出や海外との交流の停滞は、まだコロナ前の状態に戻っているとは言い難く、ここから一気に加速してくれるのを期待するまでです。

コロナ禍でシェアを伸ばしたGrabなどの配車サービスやデリバリー業界は、やはりロックダウンでダメージを受けたり、昨今のガソリン価格の高騰に際してドライバーがボイコットしたりと、まだまだ安定営業ができていないわけでも無さそうです。特に在住日本人の足としてのインフラになっている配車サービスは、通勤時や雨上がりのタイミングで、全く捕まらない状態が常態化していて重大な問題になっています。タクシー業界を駆逐してしまったので代替サービスも機能していません。

また、飲食店などの店舗や一部製造業、旅行業はコロナ禍で人員削減をしたことで人不足を招いています。ドンコイ通りなど、外国人旅行者をターゲットにした場所や施設は、インバウンドが全滅したことで当時の店舗がほとんど閉店してしまいました。すっかりシャッター街になってしまった通りが元に戻ることはイメー



▲ コロナ禍で人が全くいないグエンフエ通り

ジしくいですが、たくさんの方がこれからの回復を望んでいますし、とにかく時流をしっかりと掴むホーチミンのこと、またすぐに成長の波に乗ってくれることでしょう。

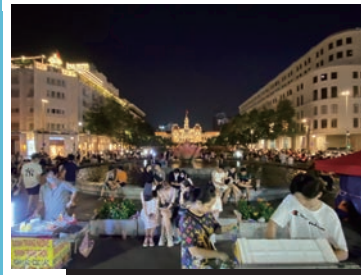
流行トレンド

コロナ禍の2年間は空白の期間と思われがちですが、その間にホーチミンの光景はどんどん変わっていました。特に、サイゴン川沿いの公園化と第2トゥーティエム橋の開通はホーチミンのリバーサイドの陰気なイメージを一気に明るく変えました。グエンフエ通りの歩行者天国からサイゴン川公園に導線が流れ、そこから第2トゥーティエム橋やビンホームなどのマンション群の壮大な景色を見るのが夜の風物詩になっています。

壮大な夜景を楽しめる
サイゴン川公園 ▶



街の消費は完全にベトナム人の若者世代が担っていて、かつて外国人旅行者で溢れていたグエンフエ通り、オペラハウス、サイゴン大聖堂周辺は夜な夜なたくさんの若者で賑わい、路上にシートを敷いて座り込んで各々の青春を謳歌しています。レタントン



通りの日本人街はコロナ前はそれでも日本人が大多数を占めていましたが、今では日本人よりもベトナムや韓国、台湾の人々の顔が目立つようになりました。

たくさんの若者で賑わう
グエンフエ通り ◀

新しく着任した駐在員やその帯同家族は、コロナ禍ですっかり外に出歩かなくなった日本人社会の習慣に飲まれて同じように行動してしまっているように感じます。その他ホーチミンの都市計画では、来年にはオープン予定のサイゴンメトロ1号線、ロンタン新国際空港、それらを繋ぐ幹線道路の工事が着々と進んでいます。直近数年でも更なる発展と変化が約束されているホーチミンには期待しかありませんね。

ホーチミン兵庫県人会

2007年に前兵庫県知事の呼びかけで立ち上げたホーチミン兵庫県人会は、コロナ前には会員が300人を超えていましたが、コロナ禍で活動ができない間に異動や帰国をしてしまった人が多くなったので、今年、既存会員と新規会員を集め直して100人で再結成しました。すでに県人会の集いやゴルフコンペを開催し、改めて地元兵庫県にゆかりのある方々のコミュニティが復活しました。

コロナ禍を乗り越えて、新しい景色とともにベトナム人の若者の街に変貌を遂げたホーチミンと、そこで仕事や生活をする兵庫県人のコミュニティ。コロナ前とは違った急速に発展する新たなホーチミンをぜひ見に来てください。

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界11カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】